

山麓もよう

交流の家周辺の体験情報をご紹介します!

【おおさる山乃家】 <http://oosaru.com/>

前橋市(旧粕川村)の体験活動施設であるおおさる山乃家は、標高800mの山中にあります。NPO法人じゃんけんぼんが指定管理で運営しています。



山乃家を運営している笛田さんの愛称は「首領」。バーチャルではなく、本物の自然にふれ、身も心も本当の意味で「強い」子どもを育てたいという笛田さん。山乃家では、本物の川をせき止めてつくった水遊び場やティーピー、ゲル(移動式住居)など様々な体験ができます。



「首領」の素顔です。

でも実は、笛田さんの人柄にふれることこそが、この「名物プログラム」として良いでしょう。(文:高瀬)

所要時間: 交流の家から車で30分 TEL: 027-285-6151  
 住所: 前橋市粕川町中之沢492-1  
 利用料: 山乃家1泊3,000円、中学生以下2,000円。テントサイト1泊1区画500円、サイト使用料1人200円、中学生以下100円。  
 主な体験: 「おおさる自然塾」1泊2日、5,000円。10時集合、翌15時解散。

リレーcolumn  
 すたっぷの目

『地元の立場から関わって』

文: 阿佐美 幸子  
 【あさみ さちこ】



いつも幸せな笑顔をふりまいてくれる阿佐美さん、職員心のより所です。

国立赤城青少年交流の家に勤務して、二年半となります。地元出身ではありますが、交流の家のことをあまり知らず、子どもの頃育成会行事でオリエンテーリングに来たり、地元民なら知っている『富士見かるた』(富士見は交流の家がある地区名)にある「若人つどう青年の家(交流の家の旧名称)」で覚えている程度でした。

子どもの頃は近所の友達と小川で遊んだり、山の中で木登りや虫を捕まえたりと、暗くなるまで遊んでいた記憶があります。現在二児の母ですが、ここ富士見でも環境の変化や治安の関係で昔(?)の様に外遊びが自由にできなく、キャンプ場や交流の家の施設のような場所でない、自然と向き合う体験の場・時間がなく残念に思えます。

是非、国立赤城青少年交流の家に来て、自然体験をたくさんしていただき、豊かな心を育てていただければと思います。

つぶやき

さわやかな季節から、やや肌寒く感じるようになってきました。赤城の紅葉は今がまさかり。ぜひ、赤城に遊びに来て下さい。(坂田)

山羊二匹の珍入には驚きました。詳細はトピックスでどうぞ。10月9日・10日の記事です。(秋山)

この冊子もいつまで続くか分かりません。実際見ている皆様の率直な意見をメールで送っていただければ幸いです。(田村)

過ごしやすい秋も終わり、冬が始まります。寒さ強くなればなあ。(星野)

施設点検時に、りんどうの花を見かけました。寒さの増す中、凍とした姿に見習う事の多さを痛感しました。(鈴木)

上毛カルタに「裾野は長し赤城山」とあります。なんと全国2位だそうです。朝、裾野と紅葉が見頃です。(小川)

晩秋の笠ヶ岳(尾瀬)に登ってきました。ほとんど登山者に会わない静かな山歩きを楽しみました。(島崎)

樹木が色づき始め、青空とのコントラストがとても心地よい季節となりました。なぜか食欲も... (阿佐美)

我が家に、りっぱなアケビがなりました。いつ誰が運んでくれたのでしょうか? おいしく、いただきました。(神山)

10月中旬から11月はとても過ごしやすく活動に最適。利用団体も少ないからねらい目です。(山崎)

風呂でこけ、階段でこけ。ちょっと歳を感じています。トレーナーについてトレーニング始めました。(桜井)

赤城に勤めて半年、体重が5kg減りました! いい感じです。冬場に戻らないように気をつけよう。(根岸)

昨年10月に異動して来て早々足を怪我してしまったので、2年目の抱負は「まず怪我をしない」(中屋)

ランニングしてます。今日も走りますと言うと、必ず「その前に間食やめなさい」と言われます。(井上)

赤城おろしと空風の季節。新潟の山々で雪を落とし肌をカラカラにする美容の敵。毎日の肌の潤い手入れを忘れず。(小野里)

見上げれば紅葉、見下ろせば夜景、秋、一人もの想う。懐かしき子どもたちの声。明日...夢。(新井)

自然史博物館のキノコとカビ展に行ってきました。本当奥が深い!(黛)

山がだんだん赤くなってきました。紅葉ってホットしていますね。(廣澤)

秋だと思ったらもう冬ですね。我が家では冬支度のための引きこもり準備中。(高瀬)

こちらは星空がきれいです!(内田)

この頃、風の冷たさを感じますが、夏にこの冷たい風がほしい。落ち葉がたまり秋が去り、冬将軍到来となります。皆さん風邪をひかないようにしましょう。(佐藤)

カラゴロリの発行リズムを取り戻せるよう(。;) 次号はがんばります。(柴崎)

風と太陽のくにからの通信誌

# カラゴロリ

10-11  
2012



「一日ごとに深まる秋」

赤城山の秋は駆け抜けるように過ぎて行きます。秋の味覚もじっくり味わいたいところですが、あっという間に過ぎていってしまうので、気が抜けません。風の季節もそろそろかな?

次号は、  
12月13日発行予定!

風のおと

周辺施設が連携し、  
学校プログラムを考える

ぐっと秋めいて、赤城おろしの先触れのような風が吹き始めた赤城です。そんな中、前橋市の児童文化センターにお邪魔してきました。前橋市の小学5年生は全員ここを訪れて環境学習をするのだそうです。そして、当所にも2泊3日の林間学校で訪れ、自然体験活動を中心に活動します。前橋市赤城少年自然の家に行く学校もあります。環境学習と自然体験活動は大変関係の深い活動です。そこで、3所の職員が集まって、少しお互いの情報を交換したり、連携したプログラムの展開ができないか考えてはどうだろうかという集まりでした。

所長があだこうだ言うのではなく、若い職員同士がいろいろ話をし、考えていくいいのではないかと思います。任せることにしました。ですから具体化には少し時間がかかるかもしれません。しかし、地に足のついたものを考えてくれるでしょう。もし、興味のある前橋市の先生がいらしたら、ご協力いただけるといいな、なんて思っています。

所長 桜井義雄

国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp>

TEL:027-289-7224 (9:00~18:00)

FAX:027-289-7226

赤城 カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27

E-mail: [akagi@niye.go.jp](mailto:akagi@niye.go.jp)

## 環境教育プログラムの指導者を養成しています

この事業は、環境教育に興味のある大学生や教員、社会人を対象に、自らの体験を通して自然体験活動の素晴らしさを実感したり、環境教育についての概論や、企業や市民団体の環境問題への取り組み等を学んだり、将来の地球環境を担う子どもたちに、積極的に環境教育を行う人材を育成することを目的として行われました。16名の方に参加いただきました。

1日目は、まず、赤城の森をグループに分かれて歩き、途中のチェックポイントで課題に挑戦したり、松枯れについて学んだりしながら、森の散策を楽しみました。午後には、多摩森林科学園の大石先生の指導でネイチャーゲームを体験し、五感を使って自然に親しみました。参加者の皆さんは、活動を楽しみながらも多くの自然への気づきをもつことができたようでした。後半の講義では、環境教育のこれまでの変遷や自然体験活動の意義や効果を、発達段階に応じた活動例を交えて講義いただきました。大変分かりやすく興味惹かれるお話でした。また夜には、サンセットウォッチングや木こりのろうそくを囲んでの交流会を楽しみ、その日はテントに泊まりました。



サンセットウォッチングで心もリラックス=9月8日、交流の家多目的フィールドにて

### これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問合せください⇒TEL027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)

11/3・4【あかぎサンサンかがやきキャンプ】 各日帰り  
障がいのある子どもたちの共同生活を通して、お互いが助けあう心を育むとともに、同年代の子どもが共に学び育つきっかけ作りを目的として行います。

11/10・24【あかぎ森林再生プロジェクト】 各日帰り  
松枯れの森を健全な森へ復元することを目的としており、NPO法人CCC自然・文化創造工場がプログラムの運営を行っています。企業や学校に参加いただき、年間を通じて活動をしている事業です。

11/11【第2回歴史探訪ツアー】 日帰り  
戦国時代の城跡にスポットをあて北毛地区を日帰りバス探訪します。

11/23～25【自然体験活動指導者養成研修】 2泊3日  
文科省がすすめている長期自然体験活動の環境整備の一環で行う指導者養成事業です。学校での自然体験活動を支援する方を育成します。

11/24～25【2012あかぎカップ中学生交流硬式野球大会】 1泊2日  
群馬県内外の中学校野球部を対象にした、交流試合です。

12/1～2 1/26～27【親子天文ツアー】 各回1泊2日  
ぐんま天文台を訪ね、親子で星の世界に親しむプログラムです。

1/6 2/3 3/3【早春デイキャンプ】 各日帰り  
地域の行事をみんなで祝うイベントです。大勢で集う楽しさ、共同作業のにぎわいをみんなで体験しましょう。

9/8(土)～9(日)実施  
【環境教育入門講座】レポート

### プログラム概要

【ねらい】 環境教育をすすめる上での基礎的事項を学び、環境教育を積極的に進めていく人材を育成する。  
【講師】 多摩森林科学園 大石康彦氏  
サンデンファシリティ株式会社 石倉利雪氏  
NPO法人赤城自然塾 小林善紀氏

	午前	午後	夜
1日目	実習 「赤城の森を歩いてみよう」	実習 「ネイチャーゲーム」 講義 「環境教育と自然体験活動」 講師:大石康彦氏	実習 「サンセットウォッチ」 木こりのろうそくとふりかえり
2日目	講義 「環境問題への企業の取り組み」 実習 「サンデンフォレスト見学」 講師:石倉利雪氏	講義 「環境問題への市民の取り組み」 講師:小林善紀氏 ふりかえり 「環境教育宣言づくり」	

2日目はサンデンフォレストに出かけ、サンデン株式会社や、NPO法人赤城自然塾の環境への取り組みを紹介いただき、企業や市民団体の視点からの環境教育を学びました。参加者の中には、学校教育との連携について考えられた方もいました。そして最後に、2日間のまとめとして、一人ひとりが今後の具体的な行動目標である『環境教育宣言』をつくり、それを発表して思いを分かち合い、閉会となりました。

今回参加者は16名と定員には達しませんが、参加者の皆さんの自然とのふれ合いから生まれる心からの笑顔や、未来や子どもたちへの熱い思いの溢れた環境教育宣言をみると、このような事業の潜在的需要は高いのだなと感じられます。参加者のアンケートにも「ぜひ、このような研修を同僚にも勧めていきたい。」との声もありました。世間一般的にも環境への注目がますます高まる中、より効果的な広報で参加者を多く集め、環境教育の広がりを支えると共に、環境に関するプログラムを充実させていく必要があるなと感じました。(文:根岸)

## プログラム紹介!

### 【くるくるタネ】

今年度、新登場の創作活動です。「くるくるタネ」とは、くるくるまわって種が落ちていく様を表しています。活動では、木を使ってカエデの種を模した「自分のくるくるタネ」を作ります。

このプログラムは、カエデの種がもつおもしろい性質に親しむこと、身近にある植物に目を向けるきっかけを作ること、種は遠くに行くためにいろんな工夫をしていることを知ることなどを目的として活用できるものです。(本当は難しいことは置いておいて、子どもたちにカエデの種への愛着をもってもらえればなあと思い、プログラムを作りました。ネーミングにもそんな思いがあります。)

くるくるタネのパッケージにも注目です。小さい本のような箱に、完成したくるくるタネがピッタリ収納できるようなデザインになっています。お家に帰っても飾っておけるような、遊びたいときにすぐ取り出せるような“もの”にしたいと考えました。特に秋、カエデの種が落ちる季節にはピッタリのプログラムです!(文:柴崎)



(写真上):子どもたちはカラフルなかわいいくるくるタネを作ります。  
(写真下):箱に収納したくるくるタネ、本物の種を貼る場所もあります。

国立赤城青少年交流の家で活躍する、講師やボランティアの方をご紹介します

## この人に会いたい

ドリームキャッチャー・針金細工講師・法人ボランティア

石井 直さん【たっくん】  
(群馬県立北毛青少年自然の家臨時職員)



たっくんは、一言で言えば、マルチ人間。登山、草花、釣り、カメラ、バイク、ギター、etc... 魚だってさばいちゃいます。

そんなたっくんと「赤城との出会い」は、お父さんが赤城で働いていた頃だそうです。幼少の頃からよくお父さんに連れられて遊びに来ていて、その流れで赤城ボランティアとして関わるようになり、現在、クラフトの講師もしています。

そんなたっくんは、中でも“ものづくり”が大好き。自分の思いを言葉でなく、形に表現できること、そして、作品をつくるということは大変難しいときもあるけれど、2つとして同じものができないことが何よりの魅力だそうです。

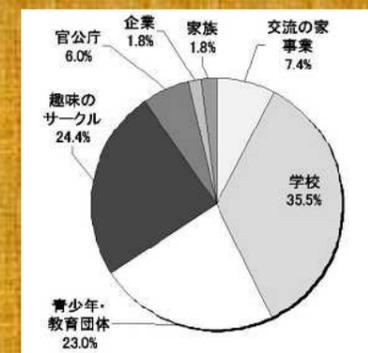
ファンキーなメガネとおしゃれな帽子がトレードマークのたっくん。職員より交流の家のことをよく知っています。

たっくんに会いたい方は、キャンプに参加したり、クラフトの講師をお願いしてみてください。魅力いっぱいの方です。是非、会って話してみてください。(文:広沢)

## 利用のようす(8～9月)



8月の利用者数  
...15,277人、  
117団体  
9月の利用者数  
...11,775人、  
100団体



## みなさんの声

### 利用にあたりよくある質問

Q.冬の赤城の気温はどのくらいになりますか?

11月に入ると朝晩で10℃を切るようになり、12月には氷点下に達することもあります。

研修室宿泊室には暖房がついておりますが、節電のため十分な暖かさとはいえませんが、今後来所される方は、羽織れる服や膝掛けをお持ちください。

お車でお越しの方は、交流の家の標高500mで雪が積もることはありませんが、路面の凍結等が考えられるので、冬用の装備をしてお越しください。

Q.来年度の予約はいつからできますか?

10月1日から始まっております。電話やFax、Webにて受け付けております。その際、宿泊が可能でも、会場が利用できないためお受けできない日もあります。ご了承ください。

ご家族・小団体(10名以下)でのご利用は、予約希望日3ヶ月前から、日帰りの方は1ヶ月前からのお申し込みとなります。



## アンケートより

「(ゴミの減量などの取り組みを)特別な機会に始めて、日常へつなげていくことが大事だと思った。」

私たちは、活動がより良い成果をあげられるよう支援を行いたいと思っています。加えて、施設のメッセージの一つとして“環境”を発信しています。

日本では、毎日大量のゴミを排出しており、社会が抱える大きな課題の一つです。地球に優しいライフスタイルを一人ひとりが考えて行動していくことが、避けては通れない時代になりました。交流の家ではゴミについては、「持ち帰り」「分別リサイクル率の向上」「生ゴミの堆肥化」を行っています。生活に身近なところからの実践をお願いしています。

赤城での体験をきっかけに、日常へ戻っても環境問題に対して取り組んで頂けたら幸いです。是非、一緒に環境問題の解決の為に“アクション”をしていきましょう。